

氏名	高 原 光 弘		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1073 号		
学位授与の日付	昭和54年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	健全成人の若年性T波 (persistent juvenile Twave pattern) に関する研究		
論文審査委員	教授 木村 郁郎	教授 大藤 眞	教授 中山 沃

学位論文内容の要旨

成人の心電図で、QRS棘波、ST-T波が正常で、右側胸部誘導の陰性T波 (persistent juvenile Twave pattern) がみられるときは右室負荷、心筋虚血などによる陰性T波との鑑別が必要となる。集団検診例での persistent juvenile Twave pattern は男性より女性、とくに中年の女性に出現率が高かった。また同一症例での8年後の persistent juvenile Twave pattern は陽性化する例が多く、陰性化が強くなる例はみられなかった。若年性T波のベクトル心電図はQRS環に異常はなく、T環の形も正常であった。 β -遮断剤の投与により persistent juvenile Twave pattern は陽性化し、T環の方向は前方に偏位する傾向を示した。QRS棘波の移行帯、電気軸は正常がほとんどであった。以上のように、persistent juvenile Twave pattern は中年の女性に多くみられ、経年的に陽性化するものが多く、 β -遮断剤の投与により陽性化することから、persistent juvenile Twave pattern の成因として交感神経系の機能亢進が考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は成人の心電図における陰性T波 (persistent juvenile Twave pattern) について臨床的に集団検診例について研究したものであるが、従来十分確立されていなかった陰性T波の意義、とくにその経年的な経過とかその成因について重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位をうる資格があると認める。